

市議会レポート

2013-③

発行:まちだ皇介事務所
〒362-0015 上尾市緑丘3-6-32
TEL/FAX 048-793-4811
Eメール k.machida@ba.wakwak.com
ホームページ http://k-machida187cm.com/

信頼・発信・安心の まちだ! ~AGEO~

上尾市議会議員

33歳

まちだ皇介



3月定例会 2/25~3/21

まちだ皇介

の一般質問 その2 〈抜粋〉



●幼保小中の連携について



小1プロブレムや中1ギャップという子どもの不適応や問題行動を解消していくには、校種間で保育・教育の進め方や実態を把握することが重要であり、学習、生活習慣の形成など、幼児期から小・中学校 9年間を通しての成長を見据えた教育を推進していくことが重要であると考え、現在の幼保小中の連携の具体的事例について伺いたい。

●担当部長答弁……………
具体的な取り組みとしては、幼児を小学校に招き、学校の生活を体験させたり、学校ファームと一緒に収穫を体験したりしている。また、小学生と中学生による合同の挨拶運動や中学生ボランティアによる小学生への学習支援等が行われている。教職員については、保育参観や授業参観、入学前の幼児・児童に関する意見交換等を実施している。また、小・中学校の教員のチームティングによる道徳の授業、学習指導や生徒指導、特別支援教育に関する合同研修なども実施している。教育委員会としては、幼保小中の連携を教育行政の重点として取り組むとともに、幼保小における円滑な接続のための接続プログラムを作成を推進し、今後も各学校を積極的に支援していきたいと考えている。



市内小・中学校における教員のチームティングによる授業の具体的な取り組みの現状は？

●担当部長答弁……………

英語、社会、体育、道徳などの授業において、中学校の教員が入学してくる児童の小学校に出向き、教科に関する専門性を活かして指導を行っている。主に高学年の学級で、年間を通して小学校の担任と一緒に授業を行っている。

…【まちだの意見】……………
義務教育の9年間を4年、3年、2年で分けする独自の学習カリキュラム、4・3・2制については、中教審の作業部会で文科省の研究校の成果をもとに議論されているところであるが、北本市では今年度から、中1ギャップ解消のためこの4・3・2制を導入し、モデル校を指定して、中学校の理科と体育の教員が小学5・6年生の理科(週3時間)、体育(週2.6時間)の授業を受け持ち、小学校の教員は免許の関係によりチームティング形式(2人1組)で、中学1年生の数学の授業の補助につく予定である。文科省の研究校や北本市の取り組みについても研究し、子どもたちの成長のためによりよい教育体制づくりを進めていきたい。

●部活動について



生徒数は昭和61年度がピークで、生徒数の減少による部活動数の減少を踏まえて、平成10年度に中学校部活動支援事業として、部活動指導員制度を導入したわけであるが、部活動指導員の選定基準と研修体制は？

特に、研修については、体罰防止に関することや事故防止など安全配慮についての研修を行っているのか、

